

2014年(平成26年)9月28日(日曜日)

# 増毛町内の作業ほぼ終了

## 新たに5キロを復元

### 増毛山道 石狩市での活動に意欲

NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)と留萌振興局は、9月中旬までに増毛山道の岩尾分岐付近から雄冬山(1197㍎)山頂付近までの延長5キロを新たに復元した。これで増毛町内の山道の復元作業がほぼ終了した。

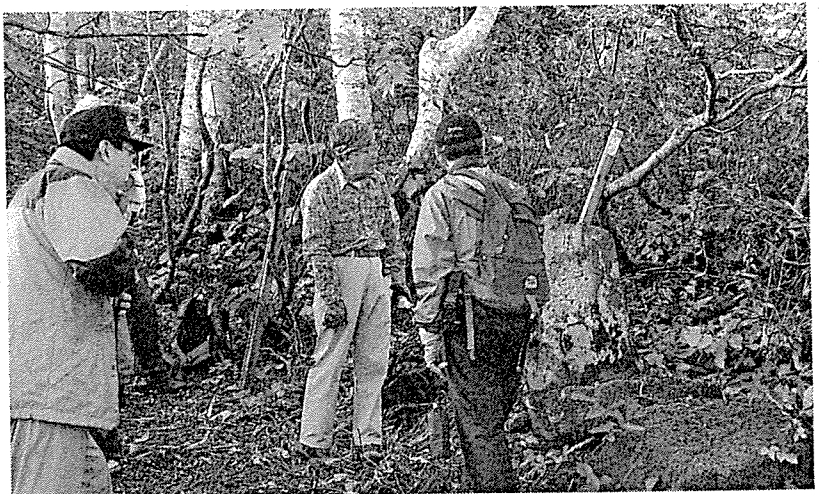
同法人の小杉忠利事務局長(74)は「さまざまな苦労があったが、やっとここまで来ることができた。残る石狩市浜益区幌までの11キロも復元したい」と意欲を見せる。10月に新たなルートで実施する体験トレッキングはすでに定員を満たして募集を打ち切っているが、今回の復元により山道の歴史にロマンを求めるファンがさらに増えそうだ。

(原田学)

増毛山道は、江戸時代末期の漁場を請け負っていた商人に交通の難所とされた増毛―浜益間を通行するため、増毛を受けて安政4年(1857

年)に私費1500両余りを投じて開削した山道。現在の増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ総延長27・8㍎で、昭和20年ごろまで使われていた。近年は草木に埋もれていたが、平成22年に同法人と留萌振興局が別荘―岩尾間の約16㍎を復元。23年から体験トレッキングとして期間限定で開放している。新たな復元作業は、今年7月中旬から開始。留萌振興局から道有林の管理業務を受託している同法人の会員5、6人が、9月中旬までに10回山道を訪れ、笹刈りを行った。増毛町市街地から岩尾分岐付近までは林道を車で走り1時間、そこから雄冬山頂付近ま

では歩いて3時間半かかるため、1回の移動も含めた作業時間は12時間に及んだ。小杉事務局長は「復元が進めば進むほど移動時間が長くなり、作業時間が短くなるので大変だった」と振り返る。



増毛山道の復元状況を確認する山道の会の会員と留萌振興局の職員

9月24日には会員とともに振興局の職員も実際に新たなルートを歩き、復元状況を確認した。小杉事務局長は「これから石狩振興局管内を復元することになるので、石狩市や札幌市に核となる団体を設け、我々のノウハウを伝えながら進めていきたい」と抱負を語る。